

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 28 年 10 月 29 日 (19:30~20:30)

1. 初期支援 (はじめのかかわり)

メンバー 西村・大石・奥村・澤田・飯田・坂本

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	0 人	5 人	1 人	1 人	7 人

前回の改善計画  
新規利用者の情報は管理者対応のもと、利用日以前に余裕を持って現場職員へ周知する。

前回の改善計画に対する取組み結果  
事前に紹介元から頂いた情報を元に、早めに現場へ周知するようにしているが、内容が不十分だと感じることもある。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか?	1	4	1	1	7
②	サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか?	0	6	1	0	7
③	本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いでの声掛けや気遣いができていますか?	0	7	0	0	7
④	本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか?	0	6	1	0	7

できている点 200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること  
事前に得た情報をもとに、事前に、主に会議で共有することができている。利用当初の利用者へは、緊張感なども考慮し、意識的に声掛けを行うよう努めており、初回の支援計画では本人・家族の悩みの相談や、事業所の他利用者・職員と円滑な関係が築いていけるようプランニングをすることで、配慮を行っている。前回の反省を踏まえての取り組みの成果が多少なりとも結果に反映されているのではないかと考えている。

できていない点 200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること  
情報が十分ではなく、また情報を得る時期も遅いように感じる。結果として体験利用の数日前になっていることもあるように感じる。

次回までの具体的な改善計画 (200 字以内)  
体験利用時の情報収集について、これまでは紹介元に一任していたが不十分と感じる部分もあるため、今後はアセスメント総括など、必要に応じてより具体的な情報を提供していただけるよう努める。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 28 年 10 月 29 日 (19:30～20:30)

2. 「～したい」の実現 (自己実現の尊重)

メンバー 西村・大石・奥村・澤田・飯田・坂本

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	0人	5人	2人	0人	7人

前回の改善計画

ケアプランに於いて、家族のニーズもその人の生活を支える上で重要な要素として尊重するが、現在以上に利用者のニーズとの分別化を図る。利用者自身の声を聞く事が難しい場合はどうしても職員や家族が主体のニーズになりがちではあるが、その中でも利用者本人の性格や成育歴なども考慮の上、出来る限り生の声に沿ったプランになるよう配慮をする。

前回の改善計画に対する取組み結果

全ての利用者のニーズを把握することは困難である事が多い。しかし、利用者の会話内容を連絡ノートへ記載することで、家族から昔の情報を得ることも出来た。今後も、本人の発言を元に家族と情報交換をし、ケアに活かせる情報収集を継続することが望ましい。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	「本人の目標 (ゴール)」がわかっていますか?	0	5	2	0	7
②	本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか?	0	7	0	0	7
③	本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか?	0	6	1	0	7
④	実践した (かかわった) 内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かしていますか?	2	4	0	1	7

できている点 200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること

意識的に利用者との関りからニーズを把握し、プランの作成を行うようにしている。また、月 2 回の会議で利用者の検討事項を取り上げ、対応の一樣化を図るとともに、全職員が各利用者のニーズを把握出来るよう努めている。

できていない点 200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること

担当利用者以外の把握が行えていないという意見があった。そのことに起因し、全ての利用者のニーズを拾えていないのではないかという疑問が残る。

また、現状の希望や問題点を中心とした支援に終始してしまう事で、本人の目標を見失いがちになる可能性がある。

次回までの具体的な改善計画 (200 字以内)

家族の意向は、毎月のモニタリングや連絡ノート・サービス担当者会議を通して聴衆を行っていく。利用者の意向については、意識的に日々の関りをケース記録に残し、得られた情報は引継ぎファイルを活用して、職員間で情報を共有できるようにする。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 28 年 10 月 29 日 (19:30～20:30)

3. 日常生活の支援

メンバー 西村・大石・奥村・澤田・飯田・坂本

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	0人	4人	2人	1人	7人

前回の改善計画
職員個々が利用者及び家族と関わる際、漠然とした会話をするのではなく、利用者のことをもっと知ろうという意識を持つよう努める。結果としてアセスメント書式の生活歴欄に追記がなされる。利用者の思いについては事業所評価2を参照。
前回の改善計画に対する取組み結果
生活歴に関する情報を得られる機会が少なく、アセスメント書式の生活歴に追記できる情報を思うように収集出来なかった。また、利用者の事を知ろうとする姿勢も未だ不十分であると感じられる。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が10個以上把握できていますか?	0	1	6	0	7
②	本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか?	1	6	0	0	7
③	ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか?	2	1	4	0	7
④	本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか?	1	6	0	0	7
⑤	共有された本人の気持ちや体調の変化に即時的に支援できていますか?	1	6	0	0	7

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
各利用者のその日の状態やバイタルサインに合わせ、臨機応変な介助が行えている。また、利用者の変化はケース記録に落とし、引継ぎファイルや必要時には毎月の会議を通して情報の共有を行っている。	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
本人の生活を、利用以前と以後で断絶して捉えているのではないかと感じる。その為、生活歴に根差したプランよりも現状の課題に注目がいき、「以前の暮らし方」の把握を必要としていないと盲目的に捉えている職員もいるのではないかと感じる。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
ケアマネジャーがプランを作成する際、利用者の生活歴に根差したプランを意識的に組み立てることで、職員の意識改革を図る。 介護職は、生活歴に焦点を合わせ日々の関わりを行い、情報収集をする。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 28 年 10 月 29 日 (19:30～20:30)

4. 地域での暮らしの支援

メンバー 西村・大石・奥村・澤田・飯田・坂本

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	0 人	4 人	2 人	1 人	7 人

前回の改善計画
<p>利用に伴う際の情報収集の他、ケアマネや職員による聞き取り及び記録への転記を行うことでその人らしさの共有を職員間で図る。現状ケアマネによる毎月の訪問モニタリングの際は、即位的なケアに対する情報を現場と共有している節がある為、今後は自宅での過ごし方も含めて適宜他職員と情報共有を行うことで共通理解を深めていく。</p>
前回の改善計画に対する取組み結果
<p>独居の利用者に関しては、近隣住民や店舗等より情報を得る機会が多く、自宅での過ごし方を把握しやすい。家族と同居されている利用者に関しては、主にモニタリングを通しての収集となるが、機会が限られていることもあり、十分な把握をするに至っていない利用者がある。</p>

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等を理解していますか?	1	5	1	0	7
②	本人と、家族・介護者や地域との関係が切れないように支援していますか?	1	4	1	1	7
③	事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか?	1	3	2	1	7
④	本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか?	1	4	2	0	7

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
<p>登録利用者の中で金銭管理に関する必要性が出てきた際、迅速に成年後見制度の活用が出来た。地域資源については、介護職員の知識向上の為に研修を実施。支援時にもそれまでの地域との関係が切れないう留意し、プランニングや実際のケアを展開している。連絡ノートにご本人と職員の会話内容を記載することで、家族から以前の本人の様子についてコメントや情報を得ることが出来た。</p>	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
<p>家族が望む地域との関係を把握出来ていない為、支援が行えているか判断できない。また、しっかり把握ができていない利用者やそうでない利用者がある。ケアマネジャーによるモニタリング時の情報は口頭での伝達のみであり、書面で確認することがないため、情報の共有不足が懸念される。</p>	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
<p>利用者の自宅での様子や地域との関りについて意識的に情報収集をし、地域での生活を長期的視点で支える事が出来るよう努める。</p>	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 28 年 10 月 29 日 (19:30～20:30)

5. 多機能性ある柔軟な支援

メンバー 西村・大石・奥村・澤田・飯田・坂本

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	0人	2人	3人	2人	7人

前回の改善計画  
日中に1度引継ミーティングを実施しているが、現状はその後利用者に変化などがあっても同日中前出勤者が集まったのものは開催していない。今後は必要時には回数に捉われずに情報共有及び対応の統一などを行っていく。地域への外出機会を今年度よりも増加させる。

前回の改善計画に対する取組み結果  
ミーティングという形はとられていなかったが、都度職員間で情報共有が行えるよう声を掛けあうことができた。  
地域への外出機会は、勤務体制の都合に左右される事があったが、地域行事には概ね参加出来た。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか?	0	5	2	0	7
②	ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか?	4	3	0	0	7
③	日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができていますか?	4	3	0	0	7
④	その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか?	1	5	1	0	7

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること  
可能な限り家族や利用者のニーズに合わせ、「通い」「訪問」「宿泊」のサービスを提供している。特に、臨時での利用形態の変更等、臨機応変な対応が行えている。  
特に独居の利用者に対しては、民生委員や成年後見人、飲食店やコンビニ等地域の協力を得ることができている。

できていない点 200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること  
希望や思いがくみ取りやすい利用者、そうでない利用者があり、埋もれているニーズがあると考えられる。  
利用者より、家族のニーズが優先されているのではないかと感じることもある。

次回までの具体的な改善計画 (200字以内)  
地域への外出機会は、これまで以上に情報収集を行い利用者の選択肢を増やすことで、利用者が主体的に参加できるようにする。  
勤務形態が変則的である為、都度ミーティングを行う事は難しい。当日リーダーを中心に全職員が情報を共有出来るよう努める。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 28 年 11 月 14 日 (19 : 30～20 : 30)

6. 連携・協働

メンバー 西村・大石・奥村・澤田・飯田・坂本

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	0 人	1 人	4 人	2 人	7 人

前回の改善計画

サービス担当者会議には、なるべく勤務調整を行い介護職員も参加出来る態勢をつくる。  
その他の会議（地域ケア会議や認知症サポーター養成講座）には主催者の意向も反映される為、次年度からも極力管理者が参加する。

前回の改善計画に対する取組み結果

サービス担当者会議への介護職員の参加は、勤務体制が確保できなかったこともあり、照会での参加という形に留まった。地域ケア会議などへの参加については管理者が中心となり参加し、場合によっては他職員が代行することで概ね参加することができた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	その他のサービス機関（医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所）との会議を行っていますか？	0	1	4	2	7
②	自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか？	0	4	0	3	7
③	地域の各種機関・団体（自治会、町内会、婦人会、消防団等）の活動やイベントに参加していますか？	0	3	2	2	7
④	登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか？	0	2	4	1	7

できている点 200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること

管理者が中心となり、地域の会議には参加することができたのではないかと感じている。例会についても回数は多くないものの、昨年度はほとんど参加していなかったことを踏まえれば、前進したのではないかと感じている。すこやかサロンへの協力や地域行事への参加も可能な範囲で実施。また、事業所前に設置しているベンチは、地域の高齢者を中心として、一時休憩場所として使用されていることが多く、有意義なものであると考えている。

できていない点 200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること

職員体制が不十分な時期が多く、サービス担当者会議への介護職員の参加がほとんどできていない。すこやかサロンについても職員体制の問題から参加できなかったこともあり、評価が分かれている。地域住民の来訪については、上記したように玄関先まではあるも、中まで入ってこられることは夏祭りが中心。事業所のスペース的な問題もあり、必ずしも地域に開放的ではないという一面がある。

次回までの具体的な改善計画 (200 字以内)

職員体制がある程度整備されたこともあり、介護職員のサービス担当者会議への参加を促進、そのために日程を早めに調整していく。夏祭り以外の行事で地域の方が楽しめそうな内容については数回事業所前に告知を行った経緯がある。参加自体はなかったが、今後も取り組みを継続していく。地域の催事により多く参加できるよう、関係機関への問い合わせを行うことで、計画的に勤務を調整していく。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 28 年 11 月 14 日 (19 : 30～20 : 30)

7. 運営

メンバー 西村・大石・奥村・澤田・飯田・坂本

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	0 人	4 人	3 人	0 人	7 人

前回の改善計画
運営推進委員会の議事録を全職員で確実に閲覧し、地域住民の反応を知ると共に、必要に応じて運営にも反映させていく。地域との関わりを深めていく為に、地域交流係りが中心となり地域も対象に含めた企画を実施していく。また、地域の消防団を巻き込んだ災害訓練を定期で実施できるよう努める
前回の改善計画に対する取組み結果
運営推進会議録は全職員が閲覧し、押印をするように変更。地域を対象とした企画については、事業所前に告知を行うなどの取組みを数回行ったが結果として結びつかず、夏祭りが中心となっている。災害 (主に消防) 訓練は 6 月・12 月に実施することとなっており、12 月実施分で地域住民等を交えた訓練を予定している。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができているか?	1	5	1	0	7
②	利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか?	1	6	0	0	7
③	地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか?	1	5	1	0	7
④	地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取組みを行っていますか?	0	4	3	0	7

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
運営推進会議録を全職員に提示することで、会議の内容をより詳細に理解することができるようになった。業務を行う中での利用者及び家族からの苦情・意見については、報告書の作成や会議での検討を行うことでその後に活かすことができおり、年に 1 度は双方にアンケートをとることでその後の運営に反映させるようにしている。また地域貢献という側面では夏祭りの開催をはじめ、すこやかサロンへの職員の派遣、地域での会議への参加等を通して協働することができるのではないかと。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
地域と協働した取組みはしているが、職員体制の問題や、職員個々の知識不足も相まって、必ずしも毎回の参加ができていないこともあり、十分とは言えないのではないかと。消防訓練では実施月は決まっているものの企画が遅く、結果として関係機関等との調整ができずに、ここ数年地域を巻き込んだ開催ができておらず、課題となっている。	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
地域の方にも来訪してもらえよう、行事開催の告知は次年度も継続して行っていく。また、消防訓練を地域を巻き込んだ形式で開催していけるよう、取組みを継続し定着を目指す。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 28 年 11 月 14 日 (19 : 30～20 : 30)

8. 質を向上するための取組み

メンバー 西村・大石・奥村・澤田・飯田・坂本

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	0 人	2 人	4 人	1 人	7 人

前回の改善計画  
昨年度より外部研修については職員の自主性に委ねていたが、全体的に希望をする職員にバラつきが強い傾向にあった。次年度は今年度のスタイルを継続しつつも、管理者からの意向で参加させる研修を増やしていく。特に非常勤職員にとっては「どの研修がよいかわからない」という意見も聞かれた為、意識的に研修を選定し、参加を勧めていく。地域連絡会には今年度はほとんど参加をしていないので、次年度からは管理者が中心となり出来る限りの参加をしていく。

前回の改善計画に対する取組み結果  
離職者がある中で職員体制が整わず、結果として前年度よりも頻度は少なくなっている。地域連絡会へは数回ではあるが参加ができたことで前年よりも前進はできたが、毎回参加できていないこともあり、十分とはいえない状況。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	研修 (職場内・職場外) を実施・参加していますか	1	5	1	1	7
②	資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか	0	2	3	2	7
③	地域連絡会に参加していますか	0	4	1	1	7
④	リスクマネジメントに取り組んでいますか	0	6	1	1	7

できている点 200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること  
出席することを前提とした研修ということもあり、法人内及び合同 (下鴨単独) での研修には概ね参加できている。地域連絡会にも数回ではあるが参加することができ、前年度と比較をすると改善されている。法人内リスクマネジメント委員会への参加を通して事故・ヒヤリハットの分析を行い、現場に周知することで取り組みを行っているほか、年に 1 回を目安として、事業所内研修を実施している。

できていない点 200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること  
職員体制が整わず、外部研修への参加ができていない。

次回までの具体的な改善計画 (200 字以内)  
外部研修への参加は、次年度も同様のスタンスで取り組んでいき、今年度よりも参加回数を増やし、職員に学びの場を提供していく。地域連絡会についても



事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 28 年 11 月 14 日 (19 : 30～20 : 30)

9. 人権・プライバシー

メンバー 西村・大石・奥村・澤田・飯田・坂本

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	1人	4人	2人	0人	7人

前回の改善計画  
職員個々が利用者と接する時には常に自分の立場と置き換えて考え、分け隔てなく丁寧な対応ができるよう努める。結果としてそういった場面が減少することを成果と捉える。

前回の改善計画に対する取組み結果  
拘束・虐待・個人情報保護については、年に1回の研修を実施して職員への教育を行った。また日々の利用者への対応は丁寧に接することができるよう、必要時には交代して対応する等、職員間でフォローをしあいながら対応することにより、利用者の特性に合わせた対応するよう心掛けた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	身体拘束をしていない	5	1	0	0	7
②	虐待は行われていない	2	4	1	0	7
③	プライバシーが守られている	2	2	3	0	7
④	必要な方に成年後見制度を活用している	5	1	1	0	7
⑤	適正な個人情報の管理ができています	1	5	1	0	7

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること  
目に見える身体拘束や虐待は行われておらず、職員も日々そういったことのないよう心掛けて業務にあたる  
ことができている。プライバシーや個人情報の管理についても、研修を実施することで基本的には遵守する  
ことができている。また成年後見制度の利用をされている利用者は既におられ、必要性の出てきた利用者  
についても役所を通して申請中である。

できていない点 200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること  
虐待や拘束の中には目にみえないものと分類される事項があり、無意識のうちにそういった対応をしてしま  
っているのではないかと意見が多く挙がった。また防犯を目的として玄関を施錠していることも自由を制限  
していることに繋がるのではないかと。プライバシーについては職員の意識が希薄になることもあり、軽はず  
みな発言をしてしまうことがあるよう感じる。

次回までの具体的な改善計画 (200字以内)  
利用者へのみえない虐待を防止するため、職員会議で利用者への対応の振り返りをする機会を作る。

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 柘野福祉会	代表者 代理	吉田 克夫	法人・ 事業所 の特徴	(法人) 昭和56年に誕生し、京都市北区の特別養護老人ホームを中心として、京都市内に多様・多数の高齢者福祉事業を展開している。
事業所名	ガーデンハウス下鴨	管理者	坂本 陽平		(事業所) 平成19年より、由緒ある左京区下鴨で事業を開始。民家を改修した温かみのある建物である 登録25名・通い15名・宿泊5名を定員として現在運営をしている。

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	1人	4 (1名は家族を兼ねる)人	0人	1人	1人	0人	1人	0人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	各項目で挙げた改善点が参加者にうまく伝わっていない部分がある。評価の公表までにしっかりとした説明を行い、理解をしてもらった上で会議に臨んで頂く。	会議前、構成員へ個別に説明を行った。地域関わりシートはしっかりと記入をいただけたが、会議で具体的な意見は十分聞き取りできていないと感じており、反省点と考えている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価を検討した職員人数が前年度より減少しているが、理由があるのか？</li> <li>・各目標で達成できていないものもあるようなので、無理のない範囲で目標設定を行い、達成できるよう取り組んでほしい。</li> <li>・職員人数の不足から達成できなかった目標もあるとのことなので、勤務体制をしっかりと整備するべきではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安定した職員人数を確保し、目標が達成できるよう努める。また、今年度は職員によっては事業所評価に十分協力してもらえなかった部分がある。職員にしっかりと重要性を伝えることで全員で協働して取り組めるようにする。</li> </ul>
B. 事業所のしつらえ・環境	夏祭りでは気軽に地域の方が事業所に入れているが、それ以外には機会が少ない。そういった機会を今後増やしていく。また、運営推進会議の構成員にも会議後など、事業所内を見学してもらう機会を設けていく	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏祭り以外でも、毎月の行事を開催する中で、玄関先にポスターを掲示するなど、地域の方の参加を呼び掛けたが、参加自体はほとんどなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的に事業所内をみる機会がなかったためわからない。</li> <li>・玄関の施錠は、昨今の事情を踏まえて、防犯のために必要ではないか。</li> <li>・玄関は飾り物もありよい雰囲気だが、フロアはあまりみていない。</li> <li>・雰囲気が悪いとは思わないが、用事がないと地域の方は来ないと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度に引き続き、構成員に事業所フロアをみていただく機会を設ける。</li> <li>・夏祭り以外にも地域の方に来訪してもらえるよう、行事の時にポスターなどを掲示することで地道に呼びかけを行っていく。</li> </ul>
C. 事業所と地域のかかわり	10年近く運営をしていることもあり、事業所の地域への認知は高くなってきている。一方で小規模多機能型居宅介護という事業形態に対する理解が乏しく、わかりにくい。現在も看板を掲げてはいるが、大きめの貼物などで、小規模を知ってもらうことが必要である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玄関先に事業所（小規模多機）を紹介するポスターを新たに作成して設置することで、理解しやすい工夫を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の挨拶はできている。</li> <li>・事業所の所在地に高齢者関連の施設があることは、多くの地域住民が知っているのではないか。</li> <li>・虐待事例で駆け込み寺になった経緯もあり、相談しやすい事業所なのではないか。</li> <li>・地域行事等、協力的に参加できている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模多機能を理解してもらうことも大切だが、実際に介護をしている人や興味のある人でないと、中々知る機会がない。そのため、今後も地域の催し等に参加・協力をしていく中で、事業所の名前や所在を知ってもらえるよう努めていく。</li> </ul>

<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>地域の代表者会や例会への参加をしていく。勤務上難しい場合もあるが、概ね2回に1回は参加できるよう努める。また、包括を始めとする協力機関と連携し、行方不明高齢者の捜索など、連携・協力体制を強めていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の例会へは数回ではあるが参加したが、まだまだ回数的にも不十分である。</li> <li>・地域包括と連携し、行方不明者が発生すれば事業所にも連絡が入るようになってきている。その際は主に送迎時を通して行方不明者の捜索に協力するようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドライブや散歩をはじめ、余暇活動(外出)に力を入れていると聞いている。</li> <li>・運営推進会議が地域を交えた会議にあたるのではないかと考えている。</li> <li>・運営推進会議で利用者が参加した地域行事についての報告も受けるがどの位の行事があり、その中でどの程度参加しているのかはわからない。</li> <li>・以前あった虐待事例以外では関わっているという話は聞かないので、あまりないのではないかと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の例会に多く参加できるよう、勤務調整を行っていく。</li> <li>・利用者の地域行事への参加も、今年度同様に促進していく。</li> <li>・引き続き地域包括と協同し、行方不明者の捜索に協力していく。</li> </ul>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>運営推進会議での意見・助言について検討をする機会を会議で持ち、積極的に取り入れや改善を図っていく。また、検討内容や結果、取り組みの過程など、運営推進会議で構成員へ伝達する機会をもつ。会議内で地域住民や地域での取り組みが議題として挙げられた場合は、会議内で検討の時間を持ち、議題の提案主と共に検討していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議での提案などは、必要に応じて職員会議などで検討する機会を設けたが、頻度は少なかった。(毎回提案や助言があったわけではないことにも起因する。)</li> <li>一方会議で検討した内容などを、確実に次回の運営推進会議で報告できていない部分があったのではないかと反省点となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議ではわからないことは質問をすることで、理解することができている。</li> <li>・利用者以外のことを話し合う機会は少ないが、地域包括や社協から、地域の情報として提供があることもある。</li> <li>・運動会の準備など、要請した時には手伝ってもらっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提案・助言に対する取り組みやその結果及び過程の報告を行う。</li> </ul>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>消防訓練を年に2回実施しているが、少なくともうち1回は地域を巻き込んだものとして、運営推進会議構成員や消防分団の参加を取り入れたものとする。地域総合防災訓練に参加することで、地域との連携強化に努める。防災計画については、とりまとめたものを玄関のファイルに保存し、外部からきた人にも周知ができるよう工夫をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度実施した避難訓練の内1回は地域住民(運営推進会議の構成員)を交えて実施したもののだが、1名のみ参加であった。</li> <li>・地域の消防分団を交えての訓練は、消防から被災時に分団からの救援を受けるのは現実的ではないとの意見を受けて見合わせた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災計画をみる機会がない。</li> <li>・地域の防災計画に参加していなかったため、事業所が参加したのかわからなかった。</li> <li>・事業所の避難訓練に参加はしたが、他の外部からの参加者はない。</li> <li>・事業所自体が小さく、普通の家を基礎としているので、被災時の一時的な避難所などの役割を果たせるかは疑問。</li> <li>・風水害など、火災以外にも様々な災害が起こっているため、十分な備えが必要と感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民参加の避難訓練を継続実施。その際の参加人数や参加者の幅を広げていく。</li> <li>・風水害に関する訓練を実施。</li> <li>・事業所の消防計画を運営推進会議の場で説明するのは、時間的にも難しい部分があるため、各構成員へ配布することで周知を図る。</li> </ul>

